

【福岡】福岡ロジテック（永山浩二社長、福岡県宇美町）は取扱事業の品質向上に力を入れている。メーカーなどの荷主企業との交渉では、協力運送事業者に代わって、運賃アップや荷待ち抑制、高速道路通行料金・付帯作業料金の收受を積極的に行っている。パートナー企業の取引環境改善を支援し、持続可能な取扱事業を目指す。

「2024年問題」への対応や人手不足を背景に、取

## 取扱事業 品質向上へ

### 運賃アップ 荷待ち抑制 荷主交渉を推進



扱事業を取り巻く環境は急速に変化している。「清算、廃業する運送事業者が目立つようになり、ドライバーが、今は求車が難しい状況になりつつある」。事業を統括管理する永山祐資取締役はこう話す。

荷主企業との交渉で、協力運送事業者に代わり配車担当が労働時間削減、高速通行料金の收受などを求めている。「積み込み時間をもっと短縮できない

配車部門ではDXを進め、20〜30代前半の若手が活躍

か」「こうすれば手待ちを解消できるはず」「高速通行料金は往復でもらえないとコンプライアンス（法令順守）上の問題が生じる」。永山取締役は「いかに協力運送事業者がコンプライアンスを守る条件で荷物を紹介できるかが、配車担当の腕の見せどころ」と言う。

一方、取扱事業でDX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に活用し、品質の底上げを狙う。DXの核となるのはグループ企業の福岡ロジテック九州（永山美由紀社長、

同町）が開発した求荷求車成約情報検索システムだ。情報の蓄積とシステムのバージョンアップを重ね、取引実績データの蓄積と需要予測の精度を高めた。

実績データを積み上げ予測の精度を上げていくことで、配車経験の浅い若手でも、先手を打った提案営業が可能となった。その結果、配車部門の若返りが進んだ。現在、本社配車部の社員6人のうち5人が20〜30代前半で、ベテランと肩を並べて業務に励んでいる。